



第23回 世界少年野球大会福井大会

THE 23rd WORLD CHILDREN'S BASEBALL FAIR 2013 IN FUKUI



8月18日から26日にかけて、第23回世界少年野球大会福井大会が嶺南6市町を会場に開催されました。

今大会には、初参加のネパールとブータンを加え、世界15の国や地域から327人の少年・少女が参加しました。

大会のスローガンは「笑顔をキャッチボール 元気・福井2013」で、“子どもたちの元気が世界を幸せにするように”との願いが込められています。



野球で広げる友情の輪

世界少年野球大会は、野球を正しく全世界に普及・発展させ、世界の子どもたちの友情と親善の輪を広げようという趣旨で、日本とアメリカのホームランキングである王貞治さんとハンク・アーロンさんによって企画されたもので、今大会で23回目を迎えました。

敦賀市総合運動公園野球場で行われた開会式で王貞治さんは、「子どもたちには、福井の伝統・文化・歴史に触れ大きく成長してもらいたい。また、世界の子どもたちと野球を通して友好の輪を広げてほしい」と話されました。

大会は、大韓民国と中華台北、嶺南の少年野球12チームによる交流試合のほか、世界13か国約130人が参加した野球教室や嶺南6市町独自の交流行事が行われました。

美浜町で交流

美浜町では、8月22日に総合運動公園グラウンドで、交流行事が行われ、野球教室に参加している子どもたちがグラウンドゴルフで交流を図っていました。

8月23日には、総合運動公園野球場で交流試合が行われ、美浜イースターズスポーツ少年団が大韓民国チームと、美浜ブルーウェーブス

世界少年野球大会の感想を聞きました



美浜イースターズスポーツ少年団
キャプテン 田辺 秀太 さん（坂尻）

初めて海外のチームと対戦しましたが、大韓民国は強かったです。試合後には握手をしたり、話をしたりと、とても優しくしてもらいました。

野球を通して、大韓民国の子たちと友達になれて良かったです。



美浜ブルーウェーブスポーツ少年団
キャプテン 武田 航 さん（久々子）

自分たちの野球ができず、とても悔しかったです。中華台北のチームと交流することができて楽しかったです。

これからもっと練習をして、機会があれば、もう1度試合をしたいと思います。



野球教室に参加した
高木 風真 さん（河原市）

初めは海外の子と言葉が通じませんでしたが、挨拶等で少しずつ仲良くなりました。

たくさんの友達ができたことが1番の思い出です。

教室に参加し野球も上達しました。これからもずっと野球を続けたいです。



元気が世界を幸せに

ポーツ少年団は中華台北チームと対戦し、野球を通じた交流が行われました。

また、野球教室には美浜町から6人が参加し、8月20日から25日までの日程で、専門講師の指導のもと、野球の基本を学んでいました。

大会中は、試合後に握手をしながら楽しく話す姿や、交流行事等で共に楽しくプレーする光景が多く見られ、王貞治さんの言葉どおり、世界15か国・地域の子どもたちが、野球を通して友好の輪を広げ、会場は世界の子どもたちの元気な笑顔であふれていました。

